

講座名	持続可能な社会と環境				
開講日	平成 28 年 8 月 17 日～8 月 19 日（予備日 8 月 20 日）				
時間数	18 時間		講座の形態		講義
受講予定者数	40 名	履修認定対象職種	教諭	主な受講対象	中学校社会科、 高等学校公民科教諭
講座の到達目標	本講座を通して受講者が持続可能な地域社会ならびに環境について理解を深め、受講者自らがこれらについての適切な学習教材を作成し、解説できるようになることを目標とする。				
講座の概要	かつての森林や農村にみる我々の原風景としての自然は、都市化により多くの面積が失われ、残されたものも急速に進展する過疎化・高齢化やグローバル化などにより質的な低下が懸念される事態となっています。本講座では、身近な存在であるこれら自然の価値を改めて見直し、それを後世に伝えていく上での問題点と改善のための取り組みを具体的に提示することで、地域の将来を生徒とともに考えていくための知識と考え方を提供することを目的とします。				
講座の計画	8月17日	1 時限	森という不思議な世界 森林は、水量調節や気象緩和といった環境資源としての役割とともに、用材などの物質資源を提供する場でもあります。この森林の持つ多面的な機能についてお話しします。		
		2 時限	森が水をつくる 森林より流れ出る河川の水質は、その流域の自然環境と人間活動によって変化しています。この変化を、三河での代表的な河川について具体的にお話しします。		
		3 時限	森の存在と人間 森の存在は物質的な側面だけでなく、私たち日本人の精神面や文化にも大きな影響を及ぼしてきました。そのかたちについて、森がほとんどない乾燥地との比較も交えお話しします。		
		4 時限	試験（60 分）とその解説		

	8月18日	1時限	自然環境と農業 農業は、様々な自然科学的、社会科学の基盤の上に成り立つ人類の根幹産業です。その歴史と現在について、自然環境との関係性から振り返ります。
		2時限	環境変化と農業 地球温暖化は今後の農業のあり方に多大な影響を及ぼすとされ、一方で農業が環境に及ぼす影響も指摘されます。これらの視点から農業の持続可能性を考えます。
		3時限	持続可能な社会と農業 人口減少やグローバル化の波による、農村地域の今後の大きな変化を前に、持続可能な地域社会の基盤となる新しい農業・農村の姿を考えます。
		4時限	試験（60分）とその解説
	8月19日	1時限	環境問題を科学的にどうとらえるか サイエンティフィック・リテラシーと環境問題について、具体例を挙げながら論考を行います。
		2時限	生物多様性と生態系サービス 生物多様性の世界標準としての生態系サービスについて、その概念と具体例および人類との関わりについて概観します。
		3時限	侵略的外来生物と生態系の保全 生態機能の基礎的知識について学び、機能面からの生態系サービスの理解を深めます。合わせて侵略的外来生物の問題についても言及します。
		4時限	試験（60分）とその解説
修了確認の方法	筆記試験の評価による（試験は8月17日、18日、19日、の4時限に行う）		
成績評価の視点	試験の成績により評価する		
備考	1時限は90分 教科書は使用しない。必要な資料は、授業時適宜配布する。		
担当者	8月17日 片山 幸士（人間環境大学 人間環境学部 教授） 8月18日 守村 敦郎（人間環境大学 人間環境学部 教授） 8月19日 藤井 伸二（人間環境大学 人間環境学部 准教授）		